

日本

消費関連指標 (2019年8月)

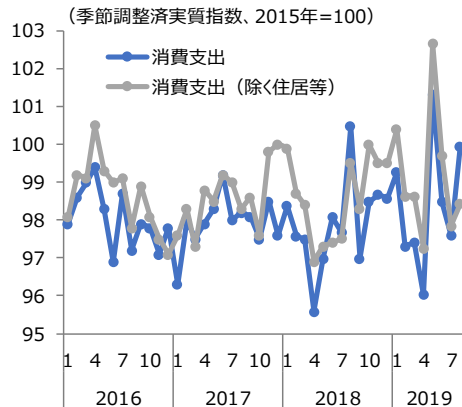
一部耐久財への駆込み需要もあり、消費は堅調

政策・経済研究センター

綿谷謙吾

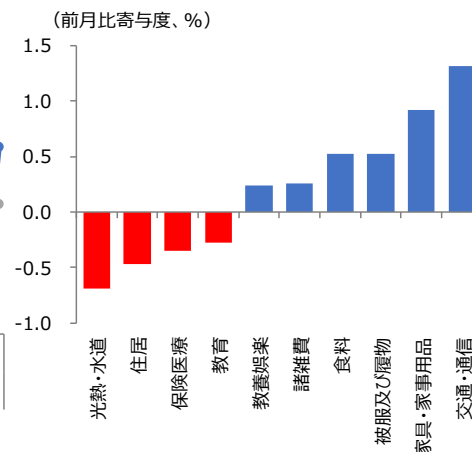
03-6858-2717

1 実質消費支出 (季調値)



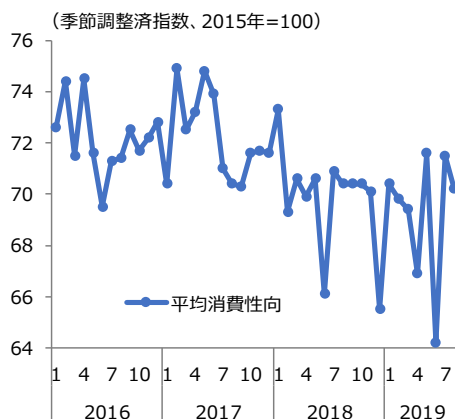
注：二人以上の世帯。2018年1月および19年1月は変動調整値の伸びを用い、当社にて延伸。
出所：総務省「家計調査報告」

2 品目別内訳寄与度



出所：総務省「家計調査報告」

3 平均消費性向



出所：総務省「家計調査報告」

4 新車販売台数 (乗用車含む軽)



出所：日本自動車販売協会連合会及び全国軽自動車協会連合会

評価ポイント

家計調査報告 (2019年8月) の結果

- 2019年8月の消費支出（二人以上の世帯）は、実質季調済の前月比で+2.4%と増加（図表1）。均してみると、消費支出は2019年以降横ばい圏内にある。
- 品目別の内訳をみると（図表2）、交通・通信（+1.3%p）、家具・家事用品（+0.9%p）、被服及び履物（+0.5%p）、食料（+0.5%p）が前月から増加。自動車や家具等の耐久財の一部に消費税増税前の駆込みがみられたことに加え、8月は天候が回復したことから消費の増加につながった可能性がある。
- 一方、勤労者世帯の平均消費性向（季調値）は、70.2%と前月より▲1.2%p低下。均してみると、2019年以降横ばい圏内にある。平均消費性向は上がっておらず、8月時点での駆込み消費の動きは全体としては鈍かった。

新車販売台数 (2019年9月) の結果

- 2019年9月の新車販売台数（乗用車含む軽）は、45.9万台と前年同月比で+13.6%と増加し、3か月連続の増加となった（図表4）。
- 新車販売台数は、2014年4月の消費税増税時に比べ駆込み需要は弱いものの、増税直前にかけては一定の駆込み需要が顕在化したとみられる。

基調判断と今後の流れ

- 消費は、消費者マインドは悪化しているものの、堅調な雇用環境もあり底堅く推移している。また、消費税増税前の駆込み需要も一時的な消費押し上げ要因となっている。
- 先行きを展望すると、9月は日用品なども含め駆込み需要が8月よりは盛り上がったとみられるものの、10月以降は実質所得の低下による消費水準の低下が予想される。ただし、前回に比べ駆込み需要が限定的となるとみられことに加え、堅調な雇用環境や軽減税率、キャッシュレス決済によるポイント還元等の政策効果もあり、消費の腰折れは回避できるだろう。